

別紙

I. 事業評価総括表

(単位：円)

番号	措置名	交付金事業の名称	交付金事業者名又は 間接交付金事業者名	交付金事業に 要した経費	交付金充当額	備考
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	金原水路改修事業	安来市	2,084,400	2,084,400	総事業費 2,084,400円

(備考) 事業が二つ以上の場合は必要に応じ欄を設けること。

II. 事業評価個表

番号	措置名	交付金事業の名称	
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	金原水路改修事業	
交付金事業者名又は間接交付金事業者名		安来市	
交付金事業実施場所	安来市広瀬町布部地内		
交付金事業の概要	<p>水路合流枡を設置する箇所は、大雨時に冠水するため、冠水を予防します。また、簡易ゲートを設置することにより、水管理作業の軽減により、水利関係者の営農活動を促進します。</p> <p>合流枡設置 1箇所 排水管再設置 1箇所 ゲート設置工 2箇所</p>		
総事業費	2,084,400	交付金充当額	2,084,400
		うち文部科学省分	
		うち経済産業省分	2,084,400
交付金事業の成果目標	<p>市の中央部に位置する、広瀬町布部の金原地区は、中山間地域で水稲を中心とする農耕地域であり、金原水路は、この地区への基幹水路として機能しており農地の用水取得等に重要な施設であるため、長期的な補修が必要な状況にあり、地元住民の要望を聞き取りをしながら、毎年、必要な箇所の改修を行っています。また、金原水路の受益者は8世帯になります。</p> <p>平成28年度の事業においては、飯梨川からの用水取水口付近を覆っていた大量の土砂を撤去しました。また、用水路土台基礎の洗掘防止対策として袋詰玉石を使用して、基礎を保護しました。このことにより、安定的に水路への取水が確保することができ、水路内の土砂撤去の実施や、2カ所の余水吐を設置したので、水量の調整や、水路内に流入した土砂を本流へ排出することが可能になり、維持管理も容易になりました。</p> <p>平成29年度の事業においては、金原水路に簡易ゲートの設置、合流枡の設置および排水管の再設置を行います。</p> <p>水量調整のために当該水路と河川本流の合流地点に樋門が設置されていますが、この樋門の管理においては、水流を止めるための堰板（せきいた）を複数人が手作業で上げ下げしており、管理者である高齢の耕作者が作業するには体力的、体制的に困難で、水量が多いときには危険な状況です。そこで、樋門部の2箇所に簡易ゲートを設置することにより、作業量を軽減させられるとともに、安全に作業を行われるようにします。</p> <p>また、降雨や洪水等により、他の水路との合流地点周辺において冠水し、周囲の畦道や田が洗掘されている状況であるので、合流枡を設置することで冠水を防止し、水路としての機能を維持します。同様に、当初、排水管上流部の水路角度にあわせた排水管では、増水時に水があふれてしまうため、下流向きに再設置し、流れの抵抗を小さくさせ、冠水を防ぎます。</p> <p>この事業により水利関係者の営農活動の促進になり、地元住民に広報誌などで周知することから、地域住民の電源開発への理解・協力が得られ、ひいては発電用施設等の設置及び運転の円滑化に資することができます。</p>		
交付金事業の成果指標	<p>簡易ゲートを設置することで、今までは地元耕作者が2～3人で管理作業していたものが1人で作業できるようになり、地元耕作者の負担を軽減することができます。また、合流枡および排水管を再設置することにより、大雨による冠水等を防ぐことが出来、農地及び水路の被害軽減につながります。</p> <p>成果指標：1年間に水路管理組合（8世帯）が行う水路管理に伴う、のべ出勤人数、作業日数、作業回数。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状 280人、30日、50回 ・改修後 150人、25日、40回 		

<p>交付金事業の成果及び評価</p>	<p>金原水路においては、平成28年度事業として、飯梨川からの用水取水口付近を覆っていた大量の土砂を撤去しました。また、用水路土台基礎の洗掘防止対策として袋詰玉石を使用して、基礎を保護しました。このことにより、安定的に水路への取水が確保することができ、水路内の土砂撤去の実施や、2カ所の余水吐を設置したので、水量の調整や、水路内に流入した土砂を本流へ排出することが可能になり、維持管理も容易になりました。そして、平成29年度事業では、この水路の下流部分に、2箇所簡易ゲートの設置、合流桝の設置および排水管の再設置を行いました。</p> <p>これまで、樋門の管理においては、水流を止めるための堰板（せきいた）を複数人が手作業で上げ下げしておりましたが、簡易ゲートの設置により、1人でも用意に管理することができるようになり、作業量の軽減、また安全に作業が行えるようになりました。</p> <p>改修後、成果指標として、月平均で、水路管理組合（8世帯）が行う水路管理に伴う、のべ出勤人数8人、作業日数2日程度、作業回数2回となり、作業量の軽減につながりました。</p> <p>また、合流桝の設置および排水管の再設置により、これまで、大雨等により水路が冠水することが頻繁に起こっていましたが、冠水を防止することができ、水路としての機能を維持することができました。</p> <p>本事業により、水利関係者の営農活動を促進し、維持管理が容易になることから、地域住民の電源開発への理解・協力が得られ、ひいては発電用施設等の設置及び運転の円滑化に資することができました。</p>		
<p>交付金事業の契約の概要</p>			
<p>契約の目的</p>	<p>契約の方法</p>	<p>契約の相手方</p>	<p>契約金額</p>
<p>水路改修</p>	<p>指名競争入札</p>	<p>株式会社 コンドウ</p>	<p>2,084,400</p>
<p>計</p>			<p>2,084,400</p>
<p>成果及び評価に係る第三者機関等の活用の有無</p>	<p>無</p>	<p>交付金事業の成果の再評価を行う場合の予定年度</p>	<p>平成33年度</p>

- (備考)
- (1) 事業ごとに作成すること。
 - (2) 番号の欄には、事業評価総括表における番号欄に対応した数を記入すること。
 - (3) 交付金事業の成果目標の欄は、発電用施設周辺地域整備法第1条（目的）を踏まえて具体的に記載すること。
 - (4) 交付金事業の成果指標の欄は、成果目標を踏まえて定量的な指標を記載すること。
 - (5) 交付金事業の成果及び評価の欄は、進捗度、利用量並びに効果等を出来る限り数値を用いて記載すること。
 - (6) 交付金事業の契約の概要の欄は、契約件数が二つ以上の場合は必要に応じ欄を設けること。
 - (7) 成果及び評価に係る第三者機関等の活用の有無の欄については、第三者機関等を活用した場合にあっては、その名称及び構成員等を記載すること。

別紙

I. 事業評価総括表

(単位：円)

番号	措置名	交付金事業の名称	交付金事業者名又は 間接交付金事業者名	交付金事業に 要した経費	交付金充当額	備考
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	下布部水路改修事業	安来市	2,170,800	2,170,800	総事業費 2,170,800円

(備考) 事業が二つ以上の場合は必要に応じ欄を設けること。

II. 事業評価個表

番号	措置名	交付金事業の名称							
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	下布部水路改修事業							
交付金事業者名又は間接交付金事業者名		安来市							
交付金事業実施場所		安来市広瀬町布部地内							
交付金事業の概要		<p>市道を横断する暗渠水路部分の水路の勾配がゆるいため、落葉や土砂のたまりやすい状況になっています。また、暗渠になっていることで、土砂等の堆積物の除去が容易に行えない状況です。そこで、本事業では、既設水路を撤去し、水路の改修（L=10m）により、水路の勾配を修正するとともに、土砂等の堆積物の除去が容易に行えるように、一部グレーチング蓋を5枚敷設し、開水路化します。また、水路法面の樹木伐採（L=200m）を行い、水路に落葉、枯れ枝等が堆積しないよう措置します。</p> <p>本事業を実施することにより、改修部付近での土砂等の堆積量が減少し、水利関係者の営農活動を促進し、維持管理が容易になります。</p>							
総事業費		2,170,800	<table border="1"> <tr> <td>交付金充当額</td> <td>2,170,800</td> </tr> <tr> <td>うち文部科学省分</td> <td></td> </tr> <tr> <td>うち経済産業省分</td> <td>2,170,800</td> </tr> </table>	交付金充当額	2,170,800	うち文部科学省分		うち経済産業省分	2,170,800
交付金充当額	2,170,800								
うち文部科学省分									
うち経済産業省分	2,170,800								
交付金事業の成果目標		<p>市の中央部に位置する、広瀬町布部の下布部地区は、中山間地域で水稻を中心とする農耕地域であり、下布部水路は、この地区への基幹水路として機能しており農地の用水取得等に重要な施設です。また、下布部水路の受益者は7軒になります。これまで、この水路の簡易な補修等については、地元住民が改修等を行ってきましたが、地元住民では対処できない補修について、平成29年度、平成30年度の2年度にかけて必要な箇所を改修を行う予定としています。なお、現状の課題と地元全体の要望を取りまとめた上で、施設の改善方法を受益者と一緒に検討し、改修を行うことで、効果的に営農活動の活性化を図っていきます。</p> <p>平成29年度の事業においては、上流部の下布部水路の改修を行います。今回の改修部分の水路は、市道の横断部分において、市道の経年による沈下に伴い水路も沈下し逆勾配になり逆流しつつあります。そのため、水路が落葉や土砂などの堆積物で閉塞し、下流域の田において、十分な流入量の確保が困難な状況です。また、この水路内の土砂等の堆積量の撤去作業に、水路が暗渠となっているため、消防ポンプを使って土砂を撤去したり、長い棒などを使って、落葉を取り除くなど、多くの時間と労力をつぎ込んでおり、年5回程度、受益耕作者が行っている状況です。</p> <p>本事業を実施することにより、水路の勾配を修正するとともに、一部グレーチング蓋により開水路化することにより、受益耕作者の水路の維持管理等の作業を軽減させます。また、平成30年度には、下流部の下布部水路の改修を検討しており、大雨、洪水時に冠水する水路の改修等を検討しています。</p> <p>この事業により水利関係者の営農活動の促進になり、地元住民に対して地域内の広報誌などで周知することから、地域住民の電源開発への理解・協力が得られ、ひいては発電用施設等の設置及び運転の円滑化に資することができます。</p>							
交付金事業の成果指標		<p>本事業を実施することにより、改修部付近での土砂等の堆積量が減少し、受益耕作者が行う堆積物撤去の回数が年間5回程度から2回程度へ減少し、維持管理が容易になり、地元耕作者の負担を軽減することができます。また、安定した用水確保が出来るようになり、水利関係者の営農活動を促進します。</p> <p>成果指標：水路管理組合（7軒）が土砂等の堆積撤去の回数。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状 年5回、延35人（7軒×5回） ・改修後 年2回、延14人（7軒×2回） 							

<p>交付金事業の成果及び評価</p>	<p>下布部水路の改修においては、現状の課題と地元全体の要望を取りまとめた上で、施設の改善方法を受益者と一緒に検討し、平成29年度、平成30年度の2年度にかけて必要な箇所を改修を行います。</p> <p>平成29年度事業として、下布部水路の上流部の市道の横断部分において、市道の経年による沈下に伴い水路も沈下し逆勾配になり、逆流しつつあるため、水路の勾配を修正し、一部グレーチング蓋により開水路化いたしました。また、水路が山に接しており、落葉などの堆積物で閉塞し、下流域の田において、十分な流入量の確保が困難な状況であるため、200メートルにわたり枝葉の伐採を行いました。</p> <p>本事業を実施したことにより、これまで、受益耕作者にとって、この水路内の土砂等の堆積量の撤去作業に、水路が暗渠となっているため、多くの時間と労力をつぎ込んでおりました。今回、一部グレーチング蓋により開水路化したことにより、簡単にグレーチング蓋を開けることができるため、土砂を撤去や落葉を取り除くなど維持管理等の作業の軽減につながりました。また、水路の勾配を修正したことにより、堆積する土砂量も減少したことから、改修前は、4月上旬に7軒で2日間を通して、水路の落葉や土砂などの堆積物を除去していましたが、7軒で1日間で作業ができました。</p> <p>また、平成30年度には、今回実施した下布部水路の下流域の改修を予定しており、大雨、洪水時に冠水する水路の改修等を検討しています。</p> <p>本事業により、水利関係者の営農活動を促進し、維持管理が容易になることから、地域住民の電源開発への理解・協力が得られ、ひいては発電用施設等の設置及び運転の円滑化に資することができました。</p>		
<p>交付金事業の契約の概要</p>			
<p>契約の目的</p>	<p>契約の方法</p>	<p>契約の相手方</p>	<p>契約金額</p>
<p>水路改修</p>	<p>指名競争入札</p>	<p>株式会社 コンドウ</p>	<p>2,170,800</p>
<p>計</p>			<p>2,170,800</p>
<p>成果及び評価に係る第三者機関等の活用の有無</p>	<p>無</p>	<p>交付金事業の成果の再評価を行う場合の予定年度</p>	<p>平成31年度</p>

- (備考)
- (1) 事業ごとに作成すること。
 - (2) 番号の欄には、事業評価総括表における番号欄に対応した数を記入すること。
 - (3) 交付金事業の成果目標の欄は、発電用施設周辺地域整備法第1条（目的）を踏まえて具体的に記載すること。
 - (4) 交付金事業の成果指標の欄は、成果目標を踏まえて定量的な指標を記載すること。
 - (5) 交付金事業の成果及び評価の欄は、進捗度、利用量並びに効果等を出来る限り数値を用いて記載すること。
 - (6) 交付金事業の契約の概要の欄は、契約件数が二つ以上の場合には必要に応じ欄を設けること。
 - (7) 成果及び評価に係る第三者機関等の活用の有無の欄については、第三者機関等を活用した場合にあっては、その名称及び構成員等を記載すること。